



カザフスタン

BOP層家庭訪問調査レポート

- 調査実施日: 2014年 9月2日
- 調査場所 : アクモラ州 アスタナ市(カザフスタンの首都) 郊外 アグロゴロドク村
- 調査対象 : ハリム(仮名)さんの一家
- 為替レート : 1円 ≒ 1.66 カザフスタン テンゲ(2014年9月29日現在)



ハリムさんの一家



ハリムさんと子供たち

家族構成	ハリム(仮名)さん(40歳) 妻(38歳) 長男(16歳・情報通信技術専門学校生) 長女・次女・三女(三つ子)(8歳)
世帯収入	137,200 テンゲ/月
職業	ハリムさん: 給油所の消防車運転士とタクシー運転手 妻: 学校の事務員、裁縫師
勤務日数	ハリムさん: 消防車運転士で1日出勤、3日休み(シフト) 空いた時間を個人タクシー業にあてている。

ハリムさん(40歳)

職業: 給油所の消防車運転士とタクシー運転手

趣味?趣味って何ですか?
消防車運転士にタクシーと
切れ目無く働いているので、
とても余分な時間はあり
ません。強いて言えば、歩く
ことが好きで外を散歩し、
アパートの遊び場で子供達
と遊ぶこと。特に、娘達と
散歩するのが好きです。

姉妹が北部の小さな町シュチンク
で、ドイツから仕入れて古着屋を
しており、我が家の家計が苦しい
ため、服をよくプレゼントしてくれます。
そのほかにも親戚から色々なものを
貰っています。

イスラム教の言い伝えにより、
娘たちが三つ子で生まれたので、
必ず天国に行けると信じて
います。

家族を愛しており、衣食が足り
るよう一生懸命働いています。

料金が安く利用客
が多いため、カザフ
スタンでは個人タク
シーのドライバーが
多い。タクシーの免
許は取っておらず
税金を払わない
ため、良い商売です。

欲しいものは、分譲
アパート、家電製品
の修理道具、交通
事故に遭った車の
修理。

妻(38歳)

職業: 学校の事務員、裁縫師

1998年に長男が生まれ、彼が
8歳のときに三つ子の娘が生
まれました。カザフスタンでは
子供を産めず体外受精が珍し
くないことから、双子も稀では
ありませんが、三つ子の娘と
いうのは滅多にいません。
1998年と2006年は幸運な年
でした。

裁縫が好きです。子供の
頃、電車の車掌をしていた
母親から日本の「蛇の目
ミン」をプレゼントされ、
その頃より裁縫に慣れ親
しんできました。

音楽も好きで音楽
教室でピアノを習っ
ています。親戚が
来たときは、数年前
に買ったカラオケを
楽しみます。それが
最大の娯楽です。

夫婦そろって買い物に
行く以外、週末は殆ど家
にいて家事やお客を迎
える料理を作っています。

多産の家族に約束され
ていた無料アパートが
支給されないなど、悩み
が少なくありません(末尾
の「ハリムさん一家の課題」
参照)。また、4人の子供
に掛かる学費等の支出
は合計で月に7,200テン
ゲと高額ではないけど、
就職した月が33,000テン
ゲ、現在が40,000テン
ゲと学校の給料の少な
いことも不満です。

今欲しいのは分譲
アパートと日本製の
ミン。そして、何年
も使って一度も壊れ
ず気に入ってますが、
そろそろ新しい洗濯
機が欲しい。

ハリムさん一家の紹介



●ハリムさん:

カザフスタン北部の小さな村ウルムカイ出身。同地域は森林資源に恵まれており、林業を営む家庭で生まれ育ち、子供の頃から自動車に慣れ親しんでいた。兵役を終えた後、技術者を志し、19歳のときアスタナ市(当時はソビエト連邦で旧称ツェリノグラード市)に上京して同市の技術専門学校に入学、学校で妻と知り合い結婚した。専門学校は中退したが、より収入の良い職を見つけることが出来れば、子供たちが育った後、復学して卒業することが出来るとしている。

●妻:

アスタナ市生まれで、技術専門学校を卒業した後工業大学の通信教育を履修し、2年前に産業技術士の学位を取得した。

●長男:

9年間の初・中等教育を終え、今年からバスを2回乗り継ぎアスタナ市内の情報通信技術専門学校に通っている。学校でコンピュータの修理などを学び、早く卒業してウェブサイトを立ち上げ、商売を始めるのが夢。家計が苦しいことを気遣い、節約のためまともな食事をとらずにいるので、栄養失調になるのではと心配されている。



家族の職業

●ハリムさん:

ガソリンスタンド・チェーン“Helios”系列のアスタナ市郊外にある給油所で消防車の運転手として3年半前から勤務し、非番の日や空き時間に個人タクシーの運転手をしている。

車は、以前は古いフォルクスワーゲンに乗っていたが、故障が多いため、昨年親戚からの借金と銀行の融資を受けてロシア製の安いラーダ・ラルグスを購入した。給油所への通勤もこの車を使っている。

●妻:

自宅からバスで1時間掛かるアスタナ市のイシム川の右岸にある学校で、事務員として働いている。しかし、家計を支えるため、学校事務員の仕事より仕立て屋や自宅での裁縫の内職に力を入れている。家々を訪問し女性たちに裁縫を教える家庭教師もしているが、昨年足を挫き数ヶ月働けなかった。学校事務員の職は友人の紹介で得たもので、勤め始めたのは2ヶ月前。州立学校であることから、州政府職員の肩書きも持っている。そのため夫妻や就学子弟のための旅行切符支給や公共交通機関のフリーパスなど、金額は少ないが、州政府職員の福利厚生メニューを利用できる。



ハリムさんの運転する消防ポンプ車



ハリムさんの車(ラーダ・ラルグス)



妻や長男が通勤・通学に利用しているバス

家計収支

月間世帯収入内訳

名前	職業	月収 (テンゲ)
ハリムさん	給油所の消防車運転士	52,000
〃	個人タクシー運転手	30,000
妻	学校の事務員	40,000
その他	両親からの援助、妻の副業(裁縫師)中古品販売他	15,200
合計:		137,200

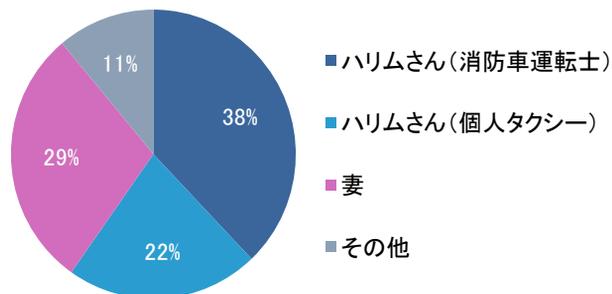
ハリムさんの収入は、消防車運転士の月給52,000テンゲと、ガソリン代を除いたタクシー収益30,000テンゲ/月。

妻の学校の月給は40,000テンゲ。

この他に、ハリムさんの両親から援助を受けており、時々両親や兄弟から売れそうなものを貰って、小さな市場で売っている。ハリムさんは最近、両親からは壊れた洗濯機を、兄弟からは古い電子ピアノを貰ったので、修理して売ろうと思っている。

また、妻は裁縫師の副業を持っている。

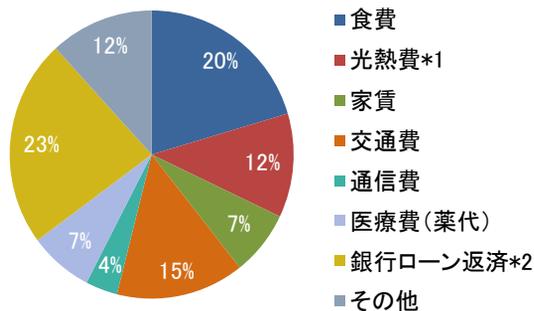
月間世帯収入の内訳



月間支出内訳

支出項目	支出金額 (テンゲ)
食費	約 28,000
光熱費	(冬季)約 20,000 (冬季以外)約 16,000
家賃	約 10,000
交通費	ハリムさん(ガソリン代): 約 12,000 長男(バス代): 約 8,000
通信費(電話料)	約 5,000
医療費(薬代)	約 10,000
銀行ローン返済*2	約 32,000
その他	約 16,200

月間支出の内訳



*1: (冬以外の季節~冬季) 11~14%

*2: 個人タクシー用自動車購入のための借り入れ。



住居



アパートの遊び場



アパートの壁
(湿っている)

ハリムさん一家の住まいは当初、低所得者向けとして州政府が2007年に建てた5階建てアパート最上階の3部屋(寝室2部屋とリビング)64平米。アスタナのこの地域には古い1階建ての住宅が多く、その間に5階建てのアパートが幾つか建っている。まだ新しいが、正門のブリキ製のドアが崩れており、天井がしばしば剥がれ落ちてくるなど、既に修理が必要などところがある。そのため、子供部屋の壁紙を張り替えるなど、時々ハリムさんが修理しているが、アパートの壁は、触って解かるほど湿っており、子供の健康を脅かす要因となっている。

●娘達の部屋のベッドは、ハリムさんが日曜大工で作ったもの。初めは、娘達が3歳のとき3段のベビー・ベッドを買ったが、娘達が大きくなり、経費節約のために手作りした。

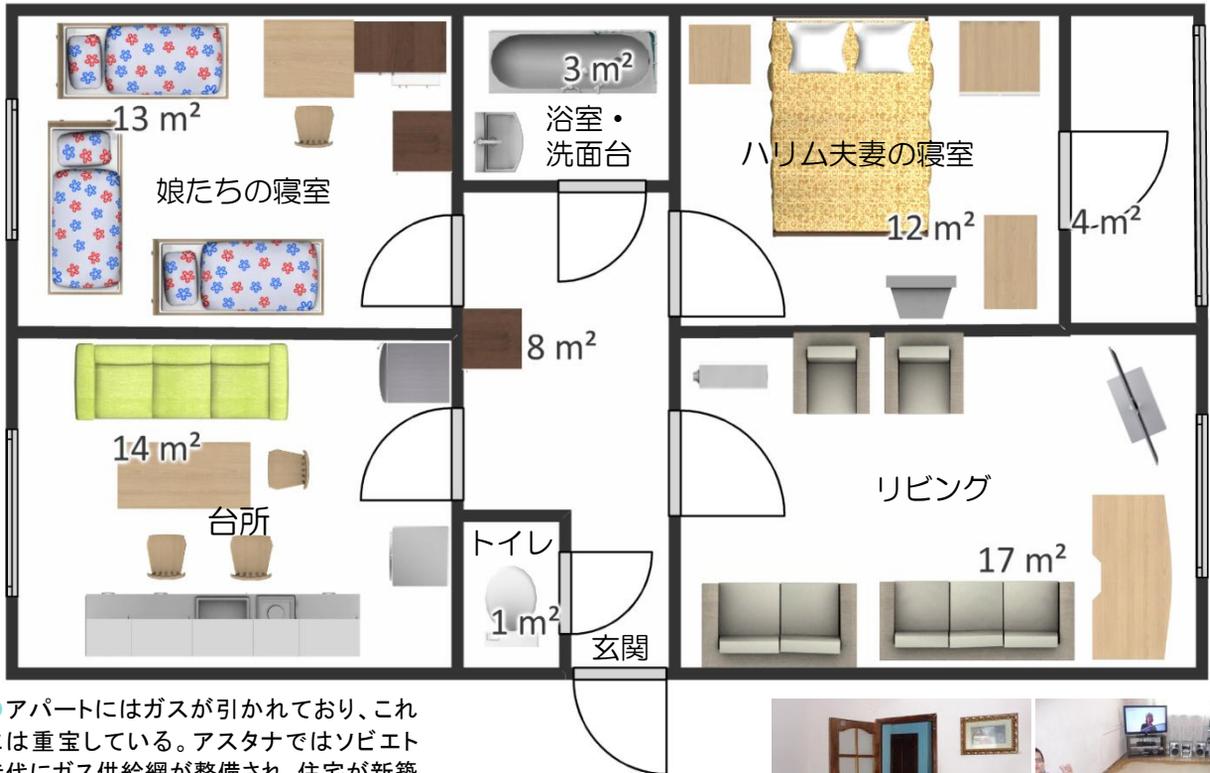


洗面台と浴槽



寝室の洋服ダンス

●夫妻の寝室にあるベッドと洋服ダンスは中央市場で買ったもの。洋服ダンスは、妻の母親が銀行から借り入れして買い与えた。



●アパートにはガスが引かれており、これには重宝している。アスタナではソビエト時代にガス供給網が整備され、住宅が新築される場合、現場近くまできている本管から引けばよい。そのためガス利用が普及しており、電気でする場合月4,000テンゲかかるところを、ガスでは1,000テンゲで済む。

●玄関に入った左側が台所で古い食器棚と、新聞広告を見て買った中古のガスコンロが置かれている。



調味料の棚



アパートの玄関



リビングの中

●リビングにはカバーを掛けた家具。ハリムさんの叔母からもらった。



パソコンを使用中の長男

●長男はリビングの長椅子で寝ている。デスクの上のパソコンは、妻の母親が銀行から借り入れして買い与えたもの。



所有家財・家電製品等

■ 家電製品等、おもな家財道具

品目	ブランド	購入価格 (テンゲ)	使用年数
プラズマ・テレビ	LG	180,000	5
テレビ	(中国製)	親戚からの贈り物	8
洗濯機	Indesit(イタリア製)	—	12
掃除機	LG	23,000	10
電話機	Panasonic	—	8
パソコン	—	—	—
カラオケ・セット	LG	60,000	5
冷蔵庫	—	—	—
ガスコンロ	(ロシア製)	親戚からの贈り物	10
電子レンジ	SCARLETT(ロシア製)	—	—
湯沸しポット	Atlanta(中国製)	2,000	6
アイロン	Philips	7,000	8
かがり縫いミシン	(ソ連製)	—	30 ~
ミシン	蛇の目	妻の母親からの贈り物	20
オイルヒーター	BEKO(トルコ製)	—	—



プラズマ・テレビ



洗濯機



掃除機



湯沸しポット(左)と電子レンジ(右)



パソコン(右)



オイルヒーター

● 冬は寒気が厳しく、トルコ製のオイルヒーター“BEKO”を使っている。



娘のランドセル

JETRO



食事

買い物:

ハリムさんの給料日には、夫妻そろって自宅近くにある大規模スーパーの“Astykzhan”に出かけ、米や蕎麦の実、小麦、シリアルなど日持ちする食料品を袋でまとめて次の月のために買出しする。パンや牛乳、カッターチーズなどは近くの小さな店で買う。果物や野菜も、夏場には近くの小さな店で買うが、冬場は高くなるため、週末にアスタナ市の中央市場へ買出しに出かける。野菜は、安く手に入るジャガイモや人参、キャベツ、ナス、ピーマンを食べることが多く、肉類は高価なため、近所や郷里に住む親戚が牛肉や馬肉、鶏肉を送ってくれたときくらいしか食卓に上らない。

料理:

妻は一日以上かけて料理をするが、出来たものは大抵1日で食べきる。基本的なメニューは、米やえんどう豆・蕎麦の実とソーレル(ミヤマカタバミ)のスープ。卵ソースなどのパスタ、シリアル、グーラッシュ(ハンガリー風シチュー)、餃子、マンティイ(肉まん)、ベシュバルマク(茹でた馬肉や羊肉のカザフスタン伝統料理。幅広の茹で麵を添え、グレービーを掛けて食べる)なども食卓に上る。

インタビューに訪れた日には、家族で紅茶を飲みながら卵入りのソーレル・スープを楽しんでいた。

食事:

食事は、通常台所ですが、客の訪問があったときは、台所の食卓を運んだり、椅子やテーブルを近所から借りてきてリビングで食事する。

ハリムさんは、給油所の消防車運転士の仕事の日は、家族揃っての夕食には間に合わないが、タクシーの仕事日は、しばしば昼食に帰ってくる。妻は、仕事の関係から昼食は学校でとり、夕食は、帰宅した後に、作っておいた料理を温めるなどして食べる。平日は家族ばらばらで食事をとることが多いが、週末は、ハリムさんが家にいる場合、家族揃って夕食をとる。家計の都合から外食はしない。



スーパーの店内



マンティイ(イメージ)



ベシュバルマク(イメージ)



冷蔵庫の中



道端の果物屋



時間

平日	ハリムさん	平日	妻
06:15	起床	06:15	起床
06:20	洗顔、シャワー	06:20	洗顔、シャワー
06:40	朝食	06:30	朝食の用意
07:00	出勤	06:45	子供達を起こし、登校の準備
08:00 ~ 12:00	給油所で勤務	07:00	子供達と朝食
12:00 ~ 13:00	昼食	07:30	出勤準備
13:00 ~ 17:00	給油所で勤務	08:15	バスで学校に出勤
18:00	帰宅	09:00 ~ 13:00	勤務
19:30	夕食	13:00 ~ 14:00	昼食(学食か弁当)
20:00 ~ 23:00	テレビ	14:00 ~ 18:00	勤務
23:00	就寝	19:00	帰宅し、夕食の準備
		19:30	夕食
		20:00 ~ 22:00	娘達の宿題をみる
		22:00	翌日の仕事の準備、 夫や長男の弁当を用意
		23:00	就寝

週末	ハリムさん	週末	妻
07:00	起床	09:00 または 10:00	起床
07:05	洗顔、シャワー	09:05 または 10:05	洗顔、シャワー
07:30	朝食	09:30	朝食の用意
09:00	家や家財道具の修理、 妻の手伝い	10:00	子供達と朝食
13:00 ~ 14:00	昼食	10:30	掃除・洗濯等家事、裁縫の賃仕事
14:00 ~ 20:00	個人タクシー	12:00	昼食と夕食の料理
20:00	夕食	13:00	昼食
20:30	テレビ	14:00	夕方まで家事
23:30	就寝	20:00	家族揃って夕食
		20:30 ~ 23:00	家事
		23:00	就寝

ハリムさん一家の課題

現在の一番の悩みは家の問題だ。州政府は、ハリムさん一家のような子供の多い家庭には、無料住宅や色々なものをプレゼントすると新聞やテレビなどでPRし、その資金を集める寄付も募っていた。しかしながら現実とはそうではなく、州政府に対し、約束が違おうと苦情を言っても、無料住宅への入居がなかなか実現しなかった。妊娠中に三つ子の女兒と判り、住める家が無かったらどうしようと妻は散々悩み、これからのことを考えると震えが来たそうだ。そのため、妊娠5～6ヶ月の頃、村役場やアスタナ市役所に日参したが無駄であった。三つ子を出産後、やむなく、何年も住んできたアパートに戻ったが、家賃に加え、夫のタクシー業の売り上げはオムツ代に消えるという火の車のやり繰りが始まった。オムツ1パックは3,000～4,000テンゲで、3人の乳児には3日しかもたない。



現在入居しているアパートの外観

たくさんの子を産んだ母親のもとに市長が見舞いに来る場面を、テレビで頻繁に流しているのに、市長はおろか、市役所の誰も見舞いに来ることは無かった。娘たちが1歳になったとき、無料住宅を約束していた市長に面会して陳情したが、約束が実現するには、さらに時間がかかった。

それから1年後、ついに寝室2部屋にリビングの付いた無料アパートへの入居が実現したが、それは5階の部屋であった。脊椎ヘルニアを患う妻は、役所へ陳情に通ったときも必死の思いで道を歩いていたが、さらに乳飲み子を抱え、エレベータの無いアパートの階段を昇り降りしなければならなくなった。

入居から数年後、役所から200,000テンゲもの支払いを求める驚愕の通知が届いた。無料住宅提供の約束にもかかわらず、アパートは無料ではなく賃貸となっており、家賃を滞納しているとのことだった。夫妻は仕方なく、支払いに応じるため高利の消費者金融を借り、最近になってやっとローンを完済することが出来た。州政府の貸家プログラムは、元々は低所得層援助に焦点を当てた利用しやすいものだったが、その後、低所得層だけを対象としたものではなくなっていたのだ。今のアパートは一年毎の契約なので、毎年交渉しては契約を更新してきているが、今後も住み続けられるかどうかは定かではない。

悪いことはそれだけではなかった。長男が16歳になったのをきっかけに、年少子弟が多い家庭の対象から外れ、州政府のアパートから立ち退きを要求される恐れが出てきた。さらに、長男にこれまで支給されてきたバスの無料乗車券が支給されなくなった。また、新たな問題として、娘たちが妊娠7ヶ月の早産で生まれた未熟児のせいか、頻繁に身体を壊し、そのため薬と栄養剤の購入費用が必要だが、最近では“Tyanshi,”という安い漢方の栄養剤を購入し、これが効いているようだ。

■ インタビューを終えて ■

暮らしは楽ではないが、それでも親戚がしばしば訪れ、暫くの間滞在していくことが、ハリム夫妻の気晴らしになっているようだ。今回の調査で訪問したときは、カザフスタン北部のペトロパブロフスクから妻の叔母と姉が訪ねて来ていた。彼女達は、ペトロパブロフスクでは仕事がないため、アスタナへ移りたいと思っているとのこと。カザフスタンでは親戚が困っているとき、家庭がどんな状況でも手助けを断わらないのが普通だ。

苦しい境遇の中でもハリム夫妻は明るく、ユーモアのセンスに満ちており、一家の夢はトルコへ旅行すること。トルコでは、ロシアやカザフスタンなどCIS諸国からの観光客向けに、食事・宿泊付きのツアープログラムが用意されており、カザフスタンやロシアでは、夏にトルコへの船旅が人気だ。またチャーター便も就航している。近年カザフスタンでは冷夏が続き海水浴が出来ないため、年を追うごとにトルコへの観光客が増えている。ツアー料金は一人1週間で800～900ドルで、娘達のクラスメートは皆トルコ旅行をしているが、残念ながらハリム一家には当分実現出来そうにない。そのため、夏休みに子供達と共に、親戚のいるカザフスタン北部のペトロパブロフスクなどに行く計画をたてている。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。